

展示を見学できます。

館内にはシアター、地質展示室、考古・民俗展示室、子ども向けの体験コーナーがあり、地域の自然と文化について興味深い展示を見学できます。

これらの展示とともに、大津波の記録をまとめた映像「荒れ狂う海～津波常習地・大船渡～」の上映、明治29年(1896)と昭和8年(1933)の三陸地震津波、昭和35年(1960)のチリ地震津波の写真や記録の展示が行われています。また、コンテンツから、この地域が経験した巨大津波の特徴、被災から得た教訓など、津波に対する知識を学ぶことができます。

大船渡市立博物館は高台に位置していたため、津波被害を免れましたが、市内にあった保管庫が津波に襲われ、資料流失や水損の被害に遭いました。再開後は市が撮影した震災の記録や市民から提供された写真などを収集し、震災の状況を広く発信。市の復興に取組む姿を紹介してきました。



明治29年(1896)と昭和8年(1933)の三陸地震津波、昭和35年(1960)のチリ地震津波を振り返り、先人たちの教訓を後世に残すために、それぞれの被害や地震と津波の関連性がパネル展示で解説されている



岩手県南東部の気仙地域(大船渡市・陸前高田市・住田町)の自然や文化に関する資料を展示。シアターでは「荒れ狂う海～津波常習地・大船渡」のほか、常設展示の案内映像「大船渡 その海と大地」を上映している



東日本大震災の津波映像などをまとめた「荒れ狂う海～津波常習地・大船渡」は、20分の完全版と5分の短縮版がある。英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語にも対応している

●おおふなとし

## 大船渡市

## 大船渡市立博物館

●おおふなとしりつぽくづつかん

三陸海岸を襲った大地震・津波の歴史を展示



最大震度 6弱

浸水面積 8km<sup>2</sup>

最大浸水深 26.39m



全壊 2,791棟

半壊 1,147棟

一部損壊 1,654棟



死者 423人

行方不明者 79人

負傷者 2人

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠  
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

## その他

(博物館)

車椅子OK

## 施設DATA

●おおふなとしりつぽくづつかん

## 大船渡市立博物館

☎ 0192-29-2161 MAP P114E1

④ 大船渡市末崎町字大浜221-86

⑤ 三陸沿岸道路大船渡碓石海岸ICから車で10分

⑥ 9時～16時30分(最終受付は16時)

⑦ 月曜(祝日の場合は翌日)、資料整理日、くん蒸期間

⑧ 300円、高校生以下無料

⑨ あり(大型バス:あり)

## ? ? 考えてみよう

Q1 シアターで上映されている「荒れ狂う海～津波常習地・大船渡」は多数の動画と写真を整理・編集・多言語化して約1年かけて制作されました。映像や常設展示からどのようなことがわかりますか?



A1 三陸沿岸が経験した過去の津波の特徴をはじめ、被災から得た教訓、津波への正しい知識がわかる。